



# 仁淀病院からのお知らせ



## 白内障について

仁淀病院 眼科医 多田憲太郎

### 白内障とは

眼球の中にはレンズの役目をしている水晶体という組織があります。白内障とは、その水晶体が様々な原因により白く濁ってしまうことを言います。

### 白内障の症状

水晶体に混濁(特に中央部分)が生じると光の通過が妨げられ視力低下を起こしたり、光の散乱によりまぶしさを生じます。また、物が2重・3重にダブって見えたりします。

### 白内障の原因

最も多い原因は加齢による変化ですが、それ以外にも外傷性、糖尿病性、アトピー性、薬剤性(ステロイドなど)、顔面周囲の放射線治療後、先天性など様々です。

### 白内障の治療

#### ①薬物療法

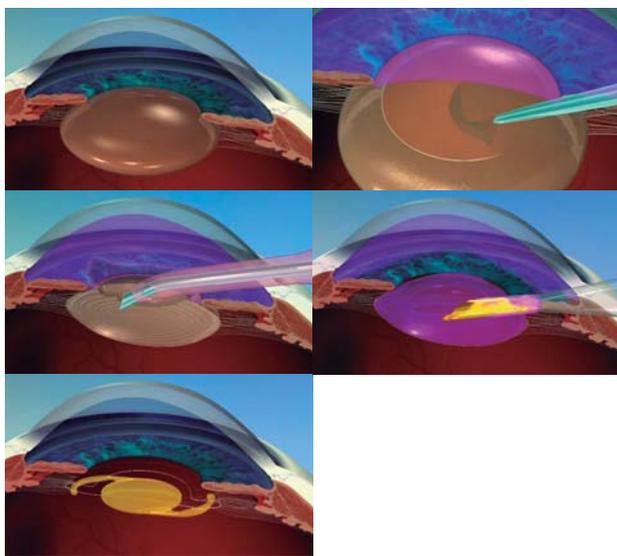
点眼薬がありますが、白内障の進行を遅くする効果にとどまり、視力低下の改善や進行を停止する効果はありません。視力低下やまぶしさ、かすみ感の改善には手術を要します。

#### ②手術

局所麻酔をして、水晶体を超音波の機械で取り除き、人工レンズを眼の中に挿入します。ただし、人工レンズはピント調節ができませんので、完全な老眼(近くが見えにくい)となります。

#### 【手術の適応の目安】

はっきりとした基準はありませんが、仕事や日常生活に支障をきたしたときが頃合いと考えます。車やバイク運転者は、免許更新で視力が足りない場合(両眼で0.7以下)に手術をします。

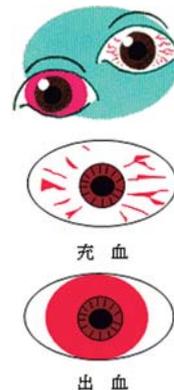


### お知らせ

当院でもこの8月から白内障手術ができるようになりました。前記の手術適応以外にも、人それぞれ適応の条件が異なりますので、詳しくは眼科医にご相談ください。

### 結膜下出血について

朝目覚めて、洗面所の鏡の前で、白目が真っ赤に染まっているのを見て、びっくりしたことはありませんか? 痛みやかゆみなど自覚症状がないものであれば「結膜下出血」の可能性が高いです。これは結膜下の血管が一部破れて出血したもので、出血の程度は、小さな点状のものから、斑状、時に眼球結膜全体を覆うものもあります。1~2週間、強いものでも1か月程度で、自然に吸収されます。では「結膜下出血」と「充血」の違いですが、充血は細い血管が拡張した状態ですので、太くなった血管の走行がみえるのに対し、結膜下出血では出血部が赤く染まり、血管の走行がみえません。



### 結膜下出血の原因

結膜下出血の原因にはいろいろあります。

- 眼局所の要因(眼の疲れ、ドライアイ、急性結膜炎、眼外傷、手術など)
- 全身性疾患(動脈硬化、高血圧、糖尿病、貧血、白血病、紫斑病、腎炎など)
- 一般的な生活での要因(くしゃみ・せき、お酒の飲み過ぎ、月経、水中めがねなど)

#### 気をつけたい結膜下出血

多くの場合は無治療で構いませんが、以下の場合には眼科・内科への受診をお勧めします。

- 眼外傷にて眼内に穿孔している場合(角膜や強膜の縫合などが必要)
- 痛みやかゆみ、目やにを伴う場合(感染性ウイルス性結膜炎では周りへの感染予防を)
- 頻繁に繰り返す場合(糖尿病や白血病など全身性疾患が考えられます)
- 熱を伴う場合(マラリア、猩紅熱、ジフテリア、コレラ、発疹チフス、インフルエンザ、麻疹などでも結膜下出血がみられます)

#### ワンポイントアドバイス

- 蒸しタオルで一日10分程度温めて周りの血流を良くすると、吸収が促進できます。
- 繰り返す起こる人は、内科で糖尿病、高血圧、血管や血液の異常がないかチェックを。
- 出血以外に痛みなどの症状があるときは、必ず眼科医に申し出てください。
- 金属片、ボール、転倒などでの穿孔性眼球外傷は、緊急治療が必要です。